

マルバサツキの一群について

著者	初島 住彦
著者別表示	Hatusima S.
雑誌名	北陸の植物 = The Journal of Geobotany = The Hokuriku journal of botany
巻	7
号	1
ページ	19-22
発行年	1958-01-15
URL	http://hdl.handle.net/2297/00065636



初島住彦※ マルバサツキの一群について

S. Hatusima : On the Group of *Rhododendron Simsii* Planch.

従来マルバサツキの産地としては肥前（五島列島）、薩摩（甌島）、屋久島、種子島、トカラ列島、琉球があげられている。然し筆者が以上の各地で開花中のものにつき観察した結果従来マルバサツキと称せられていたものには色々の異分子が含まれている事が判つた。先づ第一に琉球列島のものはどうかと云うに奄美大島、徳之島、沖繩本島、石垣島、西之表産のものは花はヤマツツジ同様赤色で雄蕊は10本である。秋葉は倒披針形（特に溪流沿いに生えているものに多く見られる）から倒卵状楕円形迄色々あるが概してトカラ列島産のものより細長く且先端は通常多少尖っている。この型のものは支那の中、南部に多い *Rh. Simsii* Planch. と比較して見るに格別差は認められない。台湾のタイワンヤマツツジ *Rh. indicum* var. *formosanum* Hay. もこの型である。又今春当教室の迫君一行がこの型のものを屋久島の安房川上流の千丈滝附近の岩上で発見したことは実に興味深いものがある。屋久島産のものは葉は倒披針形で一見同地方に多産するサツキに似ているがそれとは葉が稍大きく雄蕊が9—10本ある点で直に区別出来る。尙この千丈滝附近にはやはり10本雄蕊で屋久島特産のヤクシマツツジも産するが之は明かな別種である。この狭葉型のものは徳之島の秋津川及西之表島の浦内川の河岸でも採集した事がある。又本種の若木で乾いた樹蔭に生ずるものは葉が小さく一見ウンゼンツツジの葉を思わせるものがあり松村博士(1900)が沖繩にウンゼンツツジがある様に書かれたのはかゝる型の誤認と思う。以上の如く奄美大島以南のもので従来マルバサツキにあてられていたツツジは真のマルバサツキではないのである。この型に対する和名としては早田氏のタイワンヤマツツジ(1916)の外小松氏のリュウキユウヤマツツジ(1918)があるが前者が古いので前者を採用したい。次にトカラ列島の宝島、悪石島、諏訪瀬島、中之島、口之島、硫黄島、口永良部島、黒島、屋久島、種子島等に見られる型であるがこの型のものは秋葉は通常倒卵形で先端は多く円頭又は鈍頭で花は淡紅色でヤマザクラの花色で雄蕊は9—10本である。この型のものに最初つけられた学名は *Rh. indicum* var. *Tamurai* Mak. らしいのであるが之には異論があり小松氏(1918)は之を一園芸品として取扱い中井博士(1922, 1927)は“マルバサツキに似て雄蕊10本を有す恐らく10雄蕊の他の種との間種ならん”としている。筆者は牧野博士のタイプ（恐らく実在しないかも知れない）は見っていないがマルバサツキの栽培品ではないかと考えている。その次にこの型につけられた学名は *Rh. indicum* var. *eriocarpum* Hay. であるがこのタイプはトカラ列島の中之島で採られたものであるから議論の余地はない。中井博士は之を独立種として引上げ *Rh. eriocarpum* (Hay.) Nakai としたがどうした間違か早田博士の原記載には雄蕊は9—10本とあるのに大日本樹木誌の図では雄蕊は5本しかなく記載にも雄蕊5本と記されている。これは恐らく後に述べるサタツツジと混

※ 鹿児島大学農学部林学教室

同されたものと信ずる。このトカラ列島の型と *Rh. Simsii* Planch. との差は上記の如く花色と葉型だけであるがヤマツツジ等に於ける葉形の変化を考える時、種としての区別は無理な様に思われる。従つてこの型の学名としては *Rh. Simsii* var. *Tamurai* Kaneh. et Hats. がよく若し之に問題があるとすれば *Rh. Simsii* var. *eriocarpum* Wils. を生かせばよい。金平博士(1936)は佐々木舜一氏が台東で採られたものを本変種と同定していられるが実物を見ていないので詳でないが分布から考えむしろタイワンヤマツツジの方ではないかと想像している。次にこのトカラ列島の型と花色は同じであるが花が少々小さく葉も少々小さく先端も少々尖り枝極密生して臥した枝から根を出すものが琉球列島最南西部の尖閣列島中の魚釣島から知られセンカクツツジ *Rh. eriocarpum* var. *Tawadae* Ohwi なる名前がつけてあるが之もタイワンヤマツツジの一型と考え *Rh. Simsii* var. *Tawadae* (Ohwi) Hatusima としたい。次に肥前の五島列島及薩摩の甑島産のマルバサツキであるが筆者が両島で観察した所によると両島には上記マルバサツキに葉型が極似したツツジがあるがいずれも花はヤマツツジと同じ赤色で雄蕊は5本しかなく明かにヤマツツジの一型に外ならない。葉の先端が普通のヤマツツジより丸く表面は多少光沢があり一寸キリシマツツジの葉にも似ている。然し五島列島産はそれ程でもないが甑島産のものは花は大きく大なるものは径5—8 cm に達するものがあるのでヤマツツジの島嶼型として品種として区別してよいかも知れない。この五島列島福江島の型には最初牧野博士(1910)が *Rh. indicum* var. *macranthum* subvar. *genuinum* Maxim. なる学名をあてマルバサツキなる和名を用いられたが福江島のものはヤマツツジの円葉品に過ぎないのでこの和名を10本雄蕊のトカラ列島産のツツジにあてる事は変なことになるが既に永く使いなれた和名であるからマルバサツキなる和名はトカラ列島の型にあてた方がよいと思う。更に葉型、花色はトカラ列島産のマルバサツキとそつくりであるが雄蕊5本を有する型が南九州にある。この型に筆者はヒメマルバサツキ *Rh. austrokiusianum* Hatusima なる名前を与えたがこれはこれより僅か早く発表されたサタツツジ *Rh. sataense* Nakai の異名となる。中井博士の大日本樹木誌のマルバサツキの図はこの型のものと思う。この型のもは大隅半島では南端の佐多方面から北は霧島山麓に及びヤマツツジと混生する機会が多いので所によつては雑交が行われている様で花色にも色々の移行が認められ稀には白花品も見られる。海拔では海岸から高い所では桜島、開聞岳等の頂上迄分布している。薩摩半島では中部以南に多く殊に開聞岳、野間岳等に多い。この型のもは南九州ではヤマツツジと共に極めて普通で之が園芸用として古くから栽培された事は疑ふ余地なく従来クルメツツジの原種はミヤマキリシマならんと云われていたが筆者はこのサタツツジも原種の一部をなすものではないかと考えている。

1) *Rhododendron Simsii* Planch. in Fl. des Serr. 9 (1854) 78; Schneid., Illus. Handb. Laubholz. 2 (1911) 506; Wils. in Wils. et Rehd., Monogr. Azalea (1921) 45; Komatsu in Bot. Mag. Tokyo 32 (1918) 14; Rehd., Cult. Trees & Shrubs ed. 2 (1947) 714 et Bibliog. Cult. Trees & Shrubs (1949) 515; Kanehira, Formos. Trees ed. 2 (1936) 549

Rh. serpyllifolium Miq. : Matsum. in Bot. Mag. Tokyo 14 (1900) 69

Rh. indicum var. *formosanum* Hay., Icon. Pl. Formos. 3 (1913) 134

Rh. eriocarpum Nakai: Walker et als., Fl. Okinawa (1952) 116; Masamune, Enum. Tracheophy. Ryukyu Insul. 6 (1955) 47, p. p.

Hab. Ryukyus : Isl. Amami-oshima : near Nase city, H. Noguchi (st.); cape Miyako, March 17, 1924, Z. Tashiro (fl.). Isl. Tokunoshima : Mt. Amagidake, alt. 100 m., S. Hatusima 19208 (st.); near Boma, alt. 100 m., S. Hatusima 19373 (fr.), without locality, Y. Hosoyamada (st.); near San, S. Hatusima 19193 (fr.). Isl. Okinawa : Mt. Meijiyama, alt. 300 m., S. Sonohara, May 19, 1955 (fl.); Mt. Nagodake, T. Amano 1798 (fl.), Jun. 3, 1939; without locality, Ushio (fl.). Isl. Ishigaki : S. Ouchiyama, March 5, 1957 (fl.); Kabira, S. Kawagoe, Aug. 13, 1913 (st.); near Tomino, alt. 100 m., S. Hatusima 18895 (st.). Isl. Iriomote : T. Naito, Jan. 9, 1940 (fl.), along Urauchi River, alt. 5m., S. Hatusima 18854 (fr.), 18638 (fr.); Mt. Nakama, T. Amano 7323, Apr. 24, 1954 (fl.); Motonariya, S. Kawagoe, Aug. 30, 1919 (st.). Isl. Yakushima : near Senpiro water-fall, alt. 500 m., S. Sako 438. Formosa : Kusukusu, C. Owatari (type of *Rh. indicum* var. *formosanum* Hay.)

Distrib. China

var. **Tawadae** (Ohwi) Hatusima, comb. nov.

Rhododendron eriocarpum var. *Tawadae* Ohwi in Bull. Nat. Sci. Mus. Tokyo 34 (1954) 4

Hab. Ryukyus : Isl. Uoturi, Isls. Senkaku, S. Tawada, Apr. 17, 1952 (type)

var. **Tamurai** (Mak.) Kanehira et Hatusima in Kanehira, Formos. Trees rev. ed. (1936) 549

Rh. indicum var. *Tamurai* Mak. in Bot. Mag. Tokyo 18 (1904) 102, fig.

Rh. indicum var. *macranthum* f. *Tamurai* Mak., l. c. 24 (1910) 77

Rh. indicum var. *eriocarpum* Hay., Icon. Pl. Formos. 3 (1913) 134

Rh. Simsii var. *eriocarpum* Wils. in Rehd. et Wils., Monogr. Azalea (1921) 49

Rh. Tamurai (Mak.) Masamune, Fl. Yakushima (1929) 106; Fl. & Geo. Yakus. (1934) 349; in Trans. Nat. Hist. Formos. 28 (1938) 434

Rh. eriocarpum var. *Tamurai* Mak. et Nemoto, Fl. Jap. ed. 2 (1936) 549

Rh. eriocarpum (Hay.) Nakai, Trees & Shrubs Jap. (1922) 97, excl. fig. 53; ed. 2 (1927) 129, exc l. fig. 61; Hara, Enum. Sperm. Jap. 1 (1949) 30; Ohwi, Fl. Jap. (1953) 890

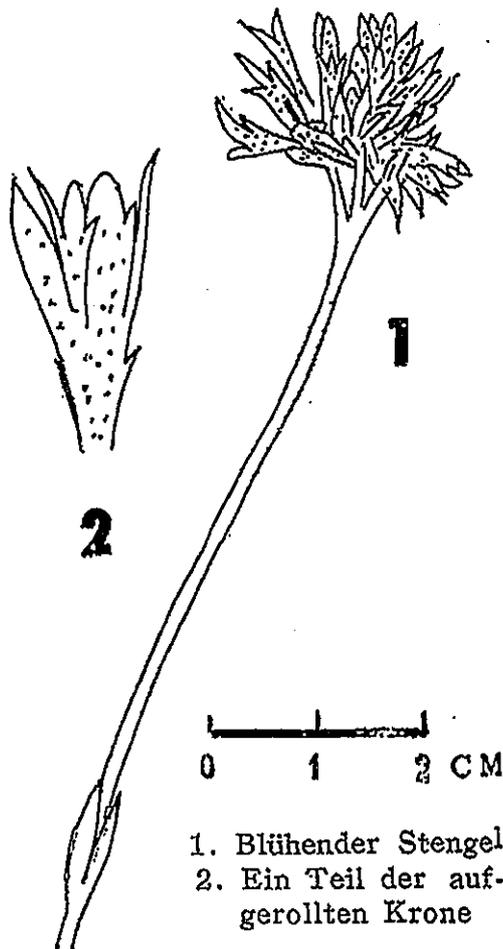
Hab. Kyusyu : Prov. Ohsumi : Isl. Kuchierabu, alt. 600 m., S. Hatusima 13498, Aug. 23, 1949 (fl.); S. Hosoyamada, Oct. 14, 1924 (fr.) : Isl. Akuseki, near seashore, S. Hatusima 16025, Feb. 12, 1952 (fl.), 16012 (fr.) : Isl. Iwo, T. Naito (st.); Isl. Tanegashima, S. Hatusima 15511 (fr.) : Nagata, Isl. Yakushima, Z.

Tashiro (fr.); Isl. Nakanoshima, Y. Tshiro?, No. 96, Aug. 1910 (type of *Rh. indicum* var. *ericarpum* Hay.)

2) *Rhododendron sataense* Nakai in Bull. Nat. Sci. Tokyo 27 (Oct. 1949) 33

Rh. austrokiusianum Hatusima in Asahina's Journ. Jap. Bot. 24 (Dec. 1949) 81, syn. nov.

Hab. Southern Kyusyu.



1. Blühender Stengel
2. Ein Teil der aufgerollten Krone

○ 豊国秀夫 ハルリンドウの一畸型

H. Toyokuni: Eine monströse Form von *Gentiana Thunbergii*

1957年7月初旬、秋山先生及び舟橋、榎本両氏が北大理学部植物学教室の学生をつれて石狩美唄泥炭地に採集に行かれた際、畸型のハルリンドウを数本採集され筆者に恵与された。

このハルリンドウは数個の花が一緒になつてしまい(図1)、更に各々一個ずつの花に当る部分も花冠裂片が下迄裂けてしまつて(図2)、一見キク科植物の花の様であり、キクザキハルリンドウとでも名付けたい位である。

放射能雨のせいでもあるまいが、過去何年かずつと美唄で学生の植物分類学野外実習を行つて来たのに、今度始めて見出された事は全く無関係とは云い切れない様な気がする。

(北大理学部植物学教室)

○ 井波一雄 タイキンギク紀北に産す K. Inami: A New Locality of *Senecio scandens* Buch.—Ham.

台湾以南では山地植物である本種が北上するにつれて沿海性のものとなり、筆者がこれまで突見した高知県や和歌山県のものはずべてやはり潮の香のする海岸であつた。九州に産しないことは不思議であるが既知の北限は紀勢半島における日ノ御崎から那智に至る間即ちその南西面に限られて熊野川を越えないものと承知していたが、筆者は昭和32年11月23日三重県側紀北の地、北牟婁郡尾鷲市に属する九鬼崎の尖端近き疎林地に(ヒノキ植林下)これの満開を見たので本半島東南側における北限としてここに報ずる。北緯34° 01'で我国最大の温湿環境地域として知られたところである。